

令和6年度 東根市農協果樹病害虫防除基準

1. 農薬の使用基準を厳守し、消費者の支持を得られる農産物を生産しましょう。
農薬取締法が改正され、農薬使用者の責任も問われることとなりました。
「食」の安全性に対し、消費者等の関心が高くなっています。安全な果実を供給できるようにしましょう。
農薬のラベルを熟読し、適用作物、総使用回数、収穫前日数など使用基準を守りましょう。
生産履歴の記帳を忘れないようにしましょう。
2. 残留農薬のポジティブリスト制度（全ての作物に残留農薬基準値が設定されている。食品衛生法 2006.5施行）を守りましょう。
隣接園地・隣接作物に飛散しないよう十分注意して散布しましょう。残留基準値を超えたり、適用外農薬散布等の違法がないように細心の注意が必要です。又、日頃から隣接園とのコミュニケーションが大切です。
3. 農薬だけに頼らず、耕種的防除で病害虫が発生しにくい環境を作りましょう。
4. 農薬の残液を河川へ捨てたり、使用した防除機具を河川で洗うことはやめましょう。また、洗浄水が河川に流れ込まないように充分注意しましょう。
5. 使用済みの容器は適正に処理しましょう（農協で一斉回収日を設けます）。また、農薬の保管管理も適正に行いましょう。
6. 農薬散布時は適当な保護マスクや保護衣等を着用するとともに、防除機類の作業前点検や健康管理に留意しましょう。
7. 農薬が余ったからといって他の作物に不用意に散布することはやめましょう。2度掛けは薬害のもとでもあります。
8. 薬剤防除間隔が空き過ぎないように、計画的に薬剤散布をしましょう。
9. 農薬登録における適用農作物は、作物単位に登録されグループ化されています。詳細は後述
10. 農薬散布液が十分付着するように間伐や剪定で通風採光を良くし、土づくり強化による樹体の健全化を図りましょう。
11. 農薬は全量農協予約結集で価格を引き下げましょう。

誤った農薬散布は産地を崩壊させる!!

— 農薬の使用履歴は安全証明の第1歩
生産履歴を正しくはっきりと記入しましょう —

この防除基準は令和5年12月25日現在の農薬登録に基づいて作成しております。登録内容が変更になる場合がありますので、最新の登録内容にご注意下さい。

目次

1 種類別農薬一覧・農薬希釈早見表等	7 すもも	13 りんご紋羽病、桃せん孔細菌病、ラ・フランス胴枯病
2 農薬登録の適用作物範囲等	8 ぶどう（大粒種）	14 おうとう樹脂細菌病、果樹の苗木消毒、おうとうの 灰星病等の越冬病害、殺虫剤別対象害虫および効果
3 おうとう	9 ぶどう（デラウェア）	16 殺ダニ剤登録一覧・除草剤使用基準
4 もも	10 果樹の耕種的・物理的防除技術一覧	17 植物生長調節剤の使用方法
5 西洋なし	11 野その駆除	18 農薬登録早見表
6 りんご	12 りんご黒星病・腐らん病	

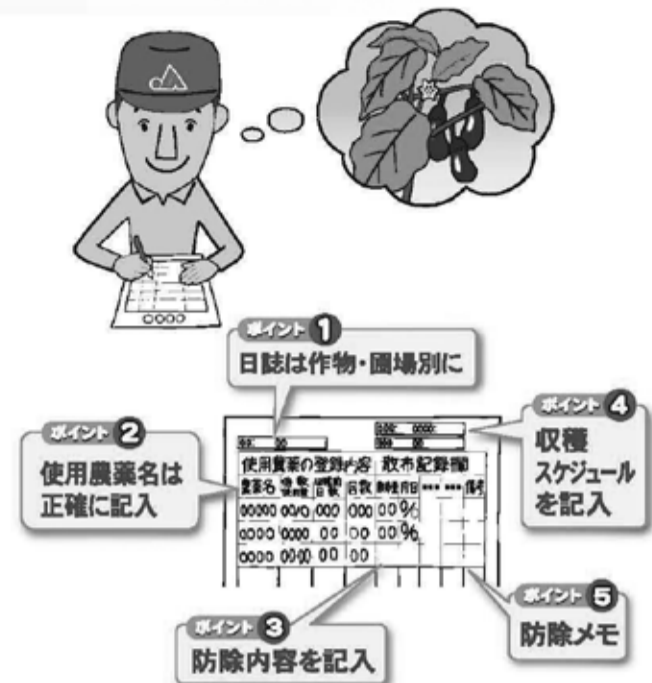
JA さくらんぼひがしね
東根市農協果樹協議会

ポイント1 農薬の使用方法を守る

農薬は決められた使用方法を守って使いましょう。

- 農薬登録番号のある農薬を使う
- ラベルにある作物以外には使わない、適用内容の範囲で使用する
- 使用量・希釈倍数は記載の範囲とし、散布液は残らないよう調整する
- 使用時期、収穫前日数を守る
- 農薬の有効成分毎の使用回数を超えない

防除作業後は農薬使用内容を記録しておきます。成分ごとの総使用回数、収穫前日数などは農薬散布前にチェックしましょう。



ポイント2 周辺への配慮と農薬飛散防止の対策

農薬使用前の防止対策、散布時のきめ細かな対応により飛散リスクを減らします。住宅地が近い圃場などでは事前に散布を周知するなど、地域一体となって飛散防止対策を行いましょよう。

- 風の強い時は散布しない
- 作物の近くから、圃場端部は内側に向かって散布する
- 作物に散布しない時は噴霧を止め、必要以上の薬液は散布しない
- 圃場間に遮断物を設置したり、緩衝区を設ける
- 収穫間近の作物が周辺にある場合は、散布日を調整する
- 水田の農薬使用後の7日間は止水管理を徹底する

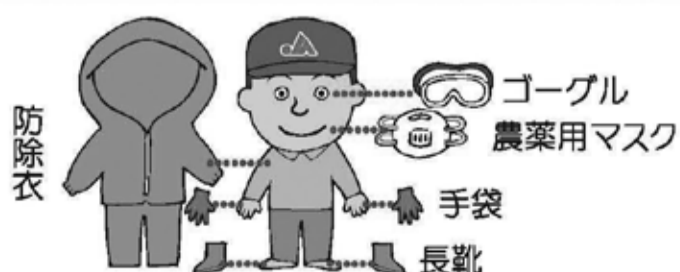


より飛散しにくい農薬への切りかえや、飛散低減ノズルの使用も検討しましょう。

ポイント3 農薬の管理は確実にする

散布者の健康管理、散布機具の整備、農薬の保管・管理と、あらゆる場面で管理を徹底していくことが事故をなくし、安全につながります。

- 農薬を使用する時は、防除衣、農薬用マスク、メガネ、手袋などを着用する
- 散布機具は日頃から整備し、使用前の確認、使用後は確実に洗浄する
- 農薬は鍵のかかる専用の保管庫で管理する(毒劇物の保管は表示が必要)
- 使用済みの空容器等は適正に処理する



種類別農薬一覧

殺虫剤	
合成ピレスロイド	アグロスリン、テルスター、バイスロイド、アディオン、スカウト、ロディー、アーデント
ネオニコチノイド	モスピラン、ダントツ、スタークル、アクタラ、アドマイヤー、バリアード
有機リン	サイアノックス、ダイアジノン、ダズバン、スミチオン、マラソン
カーバメート	オリオン
ジアミド	フェニックス、サムコル、エクシレル、テッパン、ヨーバル
I G R	アプロード、カスケード、デミリン
B T	バイオマックス
殺菌剤	
E B I	インダー、オーシャイン、オンリーワン、スコア、トリフミン、アクサー (SDHI混合)
Q o I	アミスター、ストロビー、ナリア (SDHI混合)、フリント、ファンタジスタ、スクレア、ツインバリアー
有機殺菌剤	オーソサイド、オキシラン、ジマンダイセン、ベンコゼブ、デラン、ベルコート、オキシンドー、ベフラン、トレノックス、ダイパワー
抗生物質	マイコシールド、アグレプト、バリダシン
ベンゾイミダゾール	ベンレート、トップジンM
S D H I	フルーツセイバー、パレード、カナメ、ナリア (Qol混合)、アクサー (EBI混合)

*主な農協予約申し込み農薬から

農薬希釈早見表

水量		倍数	10倍	50倍	100倍	500倍	600倍	800倍	1,000倍
		薬剂量 g・CC	100ℓ	10ℓ/水90ℓ	2ℓ/水98ℓ	1ℓ	200	166.6	125
500ℓ	50ℓ/水450ℓ		10ℓ/水490ℓ	5ℓ	1ℓ	833.3	625	500	
1,000ℓ	100ℓ/水900ℓ		20ℓ/水980ℓ	10ℓ	2ℓ	1666.6	1250	1000	
水量		倍数	1,200倍	1,500倍	2,000倍	3,000倍	4,000倍	5,000倍	
		薬剂量 g・CC	100ℓ	83.3	66.6	50	33.3	25	20
500ℓ	416.6		333.3	250	166.6	125	100		
1,000ℓ	833.3		666.6	500	333.3	250	200		

農薬混用順序と展着剤について

混用：水和剤あるいはフロアブル剤と乳剤の混用では、乳剤の希釈液を調整した後、水和剤あるいはフロアブル剤を加えて混合溶液を調整する。両薬剤を同時にねってから希釈しない。

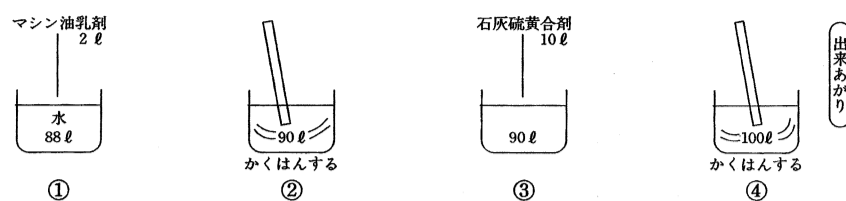
水和剤あるいはフロアブル剤どうしの混用では、一方の希釈液を調整した後、次の剤を加えて混合溶液を調整する。両薬剤を同時にねってから希釈しない。

展着剤：展着剤は作物や病害虫に農薬が付着しやすいようにするもので、水をはじきやすい植物には効果的である。一般には薬剤にはすでに界面活性剤等の付着しやすい成分が入っていることが多く、多くは必要としない。

マシン油剤と石灰硫黄合剤との混用方法

混用は次の図の手順で行う。

〈例〉100ℓの50倍マシン油と10倍石灰硫黄合剤の混合液を調合する場合



混用は十分に^{かくはん}攪拌しながら行い、混用後は速やかに散布する。

ICボルドーの上手な使い方

○ICボルドーは粘度のある懸濁液ですので、まず箱からフィルム袋を取り出し、繰り返しよくもみほぐしてください。そして、直接投入するか、又は容器等に少量の水を加えよくかき混ぜて、SSやタンク等に投入するようにしてください。



交信かく乱剤（性フェロモン）による防除

性フェロモンは昆虫が分泌する物質で、性行動（交尾）を支配しています。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園内に充満させ、雄雌の交尾を阻害し産卵を減らして、次世代の害虫密度を下げていく防除方法です。直接的な殺虫効果はありませんが、殺虫剤の散布回数を減らすことが期待できます。

薬剤名	対象作物	設置時期	10a設置数	対象害虫	設置方法
スカシバコンL	果樹類	5月中旬～下旬	40～100本	コスカシバ	対象作物の枝等に巻き付ける。目通りに8割、残りを上部や園地周囲に設置する。出来るだけ団地的に取り組む。
コンフューザーN	果樹類	4月下旬	150～200本 (ナシヒメシンクイは 50～200本/10a)	ハマキムシ類 ナシヒメシンクイ モモシンクイガ	
ナシヒメコン	果樹類	4月中旬～下旬（1回目） 7月下旬（2回目）	50～100本 50本	ナシヒメシンクイ スモモヒメシンクイ	

農薬登録における適用農作物の範囲

大作物群	中作物群	小作物群	作物名	作物名に含まれる別名、地方名、品種名等の例	備考	
果樹類	仁果類	—	かりん		果実を収穫するもの	
			なし	日本なし、西洋なし、中国なし		
			マルメロ			
			りんご			
	核果類	もも類	—	もも		
				ネクタリン		
		小核果類	—	あんず		アプリコット
				うめ		
				すもも		プラム、プルーン
				おうとう		さくらんぼ
	ベリー類等の小粒果実類	ベリー類	—	ぶどう		小粒種ぶどう、大粒種ぶどう
				食用桑（果実）		カラグワ、ヤマグワ
				すぐり		
				ハスカップ		クロミノウグイスカグラ
				ふさすぐり		カーランツ
				ブラックベリー		
ブルーベリー						
ラズベリー						

適用作物は原則として作物単位で登録されている。しかし、大作物群、中作物群、小作物群で登録されているものはその群に属する作物に使用できる。例えば、果樹類とはすべての果樹に使用でき、小粒核果類に登録があればすももにもうめにも使用できる。その他の作物は概ね作物の種類ごとに登録されている。

ももとネクタリンは別の作物として扱われるし、おうとうは小粒核果類には入らないので注意する。

果実と葉を利用するものは別に扱われるので注意を要する（あけびの果実と芽など）

おうとう

佐藤錦 発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
 3.29 4.22 4.22 4.27 5.10 6.22
平年値 (東根市東根) 北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用濃度
			収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期 (3月末迄)	カイガラムシ類 (コスカシバ) (越冬病害虫)	水 (98ℓ) 50倍(2ℓ) 1,000倍(100cc)	発芽前 7日前まで	- 2回以内	400ℓ	1. 天気のよい温暖な日を選び薬剤をむらのないように散布するとともに、薬液のかけやすい樹形に整理する。(手散布による補助散布) 2. コスカシバ対策 フェニックスフロアブル500倍(開花前まで1回)を樹幹散布する。 3. 樹脂細菌病対策 石灰硫黄合剤10倍(発芽前)を樹幹散布する。	/		
開花1日前 (風船状)	灰星病 幼果菌核病 炭そ病 ハマキムシ類	1. トレノックスフロアブル 500倍(200cc) 2. バイオマックスDF 2,000倍(50g)	21日前まで 前日まで	5回以内 -	400ℓ	1. この回以降、殺虫剤解禁までは訪花昆虫の影響を少なくするため早朝散布に努め、果群に直接薬液がかからないようにする。	/		
状況五分咲	幼果菌核病 せん孔病 灰星病	1. トップジンM水和剤 1,500倍(66.6g)	14日前まで	3回以内	600ℓ	1. 山手や開花期不順天候時に散布する。 2. 展着剤は加用しない。	/		
満開期 (八分咲)	灰星病 幼果菌核病 褐色せん孔病 ハマキムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33.3g) 2. バイオマックスDF 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 -	600ℓ		/		
満開10日後	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 (コアオカシミカメ)	1. スミレックス水和剤 1,500倍(66.6g) 2. オートサイド水和剤80 800倍(125g)	14日前まで 3日前まで	3回以内 5回以内	600ℓ	1. 花ぐされや発病果は伝染源になるので、見つけ次第摘みとり埋設する。 2. コアオカシミカメによる被害が心配される場合、ウララDF2,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。ただしポリネーション(交配用ミツバチ)回収後とする。	/		
状況5月中～ 下旬	コスカシバ	スカシバコンL 10a当たり40～100本を設置	広域的に設置する			1. コスカシバの発生が多い園では設置する。	/		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
殺虫剤 解禁後	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	1. オートサイド水和剤80 800倍(125g) 2. アグロスリン水和剤*1 1,000倍(100g)	3日前まで 3日前まで	5回以内 2回以内	600ℓ		/		
5月下旬	灰星病 カイガラムシ類 (ハダニ類)	1. スコア顆粒水和剤 2,000倍(50g) 2. トランスフォームフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 3日前まで	3回以内 3回以内	600ℓ	1. この回以降収穫を終えるまで展着剤を加用しない。 2. 早生種混植園ではトランスフォームフロアブルに替えてモスピラン顆粒水溶液 2,000倍(前日まで、1回)を散布する。	/		
生育が前進している場合には、5月下旬にダニオーテフロアブルを混用する									
6月上旬	灰星病 カメムシ類 ショウジョウバエ類 ハダニ類	1. パレード15フロアブル 2,000倍(50cc) 2. テルスターフロアブル*1 3,000倍(33.3cc) 3. ダニオーテフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	2回以内 2回以内 1回	500ℓ	1. 雨よけ被覆後はハダニが多くなりやすいので、草刈り3～4日後にいていねいに散布する。 2. 5月下旬にダニオーテフロアブルを使用した場合は使用しない。	/		
6月中旬	灰星病 炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1. ナリアWDG 2,000倍(50g) 2. エクシレルSE 2,500倍(40cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. ナリアWDGはレクチエの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2. 収穫の終わった早生品種にも散布すること。	/		
6月下旬	灰星病・黒斑病 オウトウショウジョウバエ	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc) 2. アーデントフロアブル*1 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ		/		
晩生種中心 7月上旬	灰星病・黒斑病 炭そ病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1. ナリアWDG 2,000倍(50g) 2. テッパン液剤 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1. この回以降、収穫が終わらない場合、オウトウショウジョウバエ対策として、ディアナWDG 1万倍(前日まで、2回以内)を散布する。	/		
収穫直後	褐色せん孔病 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ アメリカシロヒトリ ハダニ類	1. オキシラン水和剤 600倍(166.6g) 2. ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g) 3. カネマイトフロアブル 1,000倍(100cc)	収穫終了後～落葉期まで 14日前まで 7日前まで	3回以内 2回以内 1回	600ℓ	1. 収穫の終わっていないおうとう、ももに飛散させない。	/		
状況7月中～下旬	せん孔病	1. オキシラン水和剤 600倍(166.6g)	収穫終了後～落葉期まで	3回以内	600ℓ	1. 降雨が続くまたは、散布間隔が空きすぎる場合は散布する。	/		
8月上 ～中旬	せん孔病 カイガラムシ類幼虫 (ハダニ類)	1. オキシラン水和剤 600倍(166.6g) 2. アプローチフロアブル 1,000倍(100cc)	収穫終了後～落葉期まで 7日前まで	3回以内 2回以内	600ℓ	1. 他作目に飛散させない。 2. ハダニ類が見られる場合はコロマイト乳剤1,000倍(7日前まで、1回)を加用散布する。コロマイト水和剤はおうとう、ももに登録がない。	/		
状況9月上～中旬	褐色せん孔病	1. Zボルドー 500倍(200g) 2. クレフノン 100倍(1kg)	- -	- -	600ℓ	1. 天候不順時に散布する。 2. Zボルドーには薬害防止のため必ずクレフノン100倍を加用する。 3. 他樹種への飛散に注意する。	/		
状況9月中旬 ～10月中旬	コスカシバ	1. トラサイドA乳剤 200倍(500cc)	収穫後～ 萌芽前	1回	400ℓ	1. 樹幹及び主枝にかかるようにいねいに散布する。落葉後であればラビキラー乳剤200倍(落葉後～萌芽前、1回)でもよい。	/		
落葉後	越冬病害虫 樹脂細菌病	1. 石灰硫黄合剤 又は、 ICボルドー66D 10倍(10ℓ) 40倍(2.5kg)	発芽前 -	- -	400ℓ	1. 野そ被害が心配される園では食害忌避としてフジワン粒剤200g/樹(根雪前、2回以内)を使用する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
 オートサイド水和剤80、オキシラン水和剤などキャブタンを含む剤の総使用回数は合計で5回以内である。
 オキシラン水和剤など有機銅を含む農薬の総使用回数は合計で3回以内である。
 ※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

生食モモ

川中島 白桃 発芽 3.22 展葉 4.18 開花始 4.19 満開 4.25 落花 5.3 硬核期(満開50~75日) 6.中~7.上 収穫盛 8.28

平年値(東根市羽入)北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農薬使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
			収穫前 使用時期	総使用 回数					
3月下旬 (発芽前まで)	カイガラムシ類 モモアカアブラムシ 縮葉病 せん孔細菌病 越冬病害虫	水 1. ハーベストオイル 2. トレノックスフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤	(98ℓ) (石灰硫黄合剤を使用した場合90ℓ) 50倍(2ℓ) 500倍(200cc) 10倍(10ℓ)	発芽前 7日前まで 発芽前	- 5回以内 -	300ℓ	1. 縮葉病防除の最も重要な時期なので、発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発芽することが多いので枝先までむらなく散布する。 2. トレノックスフロアブルに替えて、オキシンドー水和剤 80 1,000倍(発芽前~開花直前まで、5回以内)でもよい。	/	
4月中~下旬(開花前)	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				未結実園地にも設置する。詳細は2ページを参照		
4月中~下旬 (開花直前)	せん孔細菌病	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	300ℓ	1. せん孔細菌病対策として開花直前に必ず散布する。	/	
せん孔細菌病対策についてはp13の果樹の耕種的・物理的防除技術一覧を参照する。									
5月上旬 (落花直後)	灰星病、うどんこ病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ハマキムシ類 シンクイムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2. マイコシールド 3. サムコフロアブル10	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 5,000倍(20cc)	前日まで 21日前まで 前日まで	3回以内 5回以内 2回以内	300ℓ	1. 耐性菌出現防止のため、抗生物質の連用は避ける。	/	
5月中旬	灰星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 (うどんこ病)	1. デランフロアブル 2. ウララDF	600倍(166.6cc) 2,000倍(50g)	7日前まで 14日前まで	4回以内 2回以内	300ℓ	1. コガネムシ類成虫が発生した場合、ウララDFに替えてモスピラン顆粒水溶性 2,000倍(前日まで 3回以内)を散布する。ただし、殺虫剤解禁後とする。 2. うどんこ病の発生が心配される場合、コナクシ顆粒水溶性 4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。	/	
状況 5月中~下旬	コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40~100本を設置				広域的に設置する。 詳細は2ページを参照	/	
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
5月下旬	せん孔細菌病 黒星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類幼虫	1. ベンコゼブ水和剤 2. ダントツ水溶性 3. アブロードフロアブル 4. (バイカルティ) *2	600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g)	21日前まで 7日前まで 14日前まで -	3回以内 3回以内 3回以内 -	300ℓ	1. デランフロアブルはラ・フランスの登録が1,000倍なので飛散に注意する。果実に汚れが出る場合があるので乾きやすい時間帯に散布する。又、アブロードBなどの浸透性展着剤を加用すると薬害が発生する場合がありますので加用しない。 2. おうとうの収穫が終わるまで飛散させない。 3. 心折れ(ナシヒメシンクイ)の被害は見つけ次第除去し処分する。 4. 殺ダニ剤は3~4日前に草刈りをしてから使用する。	/	
6月上旬	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 カメムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	1. トレノックスフロアブル 2. マイコシールド 3. テルスターフロアブル*1 4. (バイカルティ) *2	500倍(200cc) 2,000倍(50g) 3,000倍(33.3cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 21日前まで 前日まで -	5回以内 5回以内 2回以内 -	400ℓ		/	
6月中旬	黒星病 灰星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 ハダニ類	1. デランフロアブル 2. スタークル顆粒水溶性 3. ダニコングフロアブル 4. (バイカルティ) *2	600倍(166.6cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで 前日まで -	4回以内 3回以内 1回 -	400ℓ	せん孔細菌病発生時の対応(抗生物質=治療効果) マイコシールド 2,000倍 21日前まで 5回以内 バリダシン液剤5 500倍 7日前まで 4回以内 注) いずれも単用散布、他樹種に飛散させない。 抗生物質の連用は避ける。	/	
6月下旬 ~7月上旬	せん孔細菌病 灰星病 黒星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. デランフロアブル 2. エクシレルSE 3. (バイカルティ) *2	600倍(166.6cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで -	4回以内 3回以内 -	400ℓ		/	
7月中旬	灰星病 ホモプシ腐敗病 せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類 (ハダニ類)	1. オーシャイン水和剤 2. バリダシン液剤5 3. モスピラン顆粒水溶性 4. (バイカルティ) *2	2,000倍(50g) 500倍(200cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 7日前まで 前日まで -	3回以内 4回以内 3回以内 -	400ℓ	1. カイガラムシ類、ハダニ類の多い園地ではモベントフロアブル 2,000倍(7日前まで、3回以内)を加用する。	/	
状況7月下旬	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り50本を設置				1. 高温で推移した年で晩生種を栽培している園では、追加設置する		
7月下旬 ~8月上旬	灰星病 ホモプシ腐敗病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類	1. ベルクートフロアブル 2. アーデントフロアブル*1 3. マイトコーネフロアブル 4. (バイカルティ) *2	1,500倍(66.6cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで -	3回以内 3回以内 1回 -	400ℓ	1. ベルクートフロアブルは、銜桃種、ル レクチェに薬害のおそれがあるので、パレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)に替えて使用する。 2. カイガラムシの見られる園ではコルト顆粒水和剤2,000倍(前日まで、3回以内)を単用散布する。	/	
8月中旬	灰星病、炭そ病 ホモプシ腐敗病 シンクイムシ類 アブラムシ類 モモハモグリガ ウメシロカイガラムシ (ナミハダニ)	1. オンリーワンフロアブル 2. バリアード顆粒水和剤 3. (バイカルティ) *2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで -	3回以内 3回以内 -	400ℓ	1. ナミハダニのみ見られる園はコテツフロアブル2,000倍(前日まで、2回)を加用する。	/	
8月下旬	灰星病、炭そ病 黒星病 ホモプシ腐敗病 モモハモグリガ ハマキムシ類・シンクイムシ類	1. ナリアWDG 2. ヨーバルフロアブル 3. (バイカルティ) *2	2,000倍(50g) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで -	2回以内 2回以内 -	400ℓ	1. ナリアWDGはル レクチェの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2. 収穫前に除袋する品種は、除袋直後に防除を行う。	/	
9月上旬	灰星病 シンクイムシ類 モモハモグリガアブラムシ類	1. パレード15フロアブル 2. スカウトフロアブル*1 3. (バイカルティ) *2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで -	2回以内 5回以内 -	400ℓ		/	
9月中旬 (晩生種のみ)	灰星病、炭そ病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. ナリアWDG 2. ディアナWDG 3. (バイカルティ) *2	2,000倍(50g) 1万倍(10g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで -	2回以内 2回以内 -	400ℓ		/	
状況9月中旬~ 10月中旬	コスカシバ	1. トラサイドA乳剤	200倍(500cc)	収穫後~ 発芽前	1回	400ℓ	1. コスカシバの多い園は、収穫後飛散に注意して樹幹部にのみ散布する(単用)。樹幹処理は年間1回までなので注意する。	/	
収穫直後	せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412 3. スミチオン乳剤	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg) 1,000倍(100cc)	- - 3日前まで	- - 6回以内	400ℓ	1. 多品種により散布ができない場合、収穫した樹にできるだけ早く手散布にて対応する。 2. 次年度のせん孔細菌病対策としてICボルドー412は2週間間隔で必ず3回以上散布する。スミチオン乳剤を加用後、直ちに散布する。隣接する作物に付着すると汚れるので注意する。	/	
中生りんご 西洋なし 園 (収穫後)	せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. ICボルドー412 2. ダントツ水溶性	30倍(3.3kg) 2,000倍(50g)	- 7日前まで	- 3回以内			/	
前回散布 から2週間後	せん孔細菌病	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	400ℓ		/	
落葉直前	せん孔細菌病	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	400ℓ		/	
休眠期	越冬病害虫	1. 石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	-	400ℓ	1. 越冬病害虫対策と樹体保護の為に散布する。	/	

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

*1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。 *2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

生食モモ

西洋なし (ラ・フランス)

発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
3.25 4.18 4.22 4.26 5.2 10.11

平年値 (東根市営園) 北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農薬使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
			収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期	胴枯病	1. バッチレート	原液	剪定時及び 病患部削り 取り直後	塗布は 3回以内	1. 輪紋病のいば皮病斑や胴枯病斑が枝幹部にあるので、粗皮削りを必ず行い、病斑部を削り取り、胴枯病の病斑部へ塗布する。又、削り取りができない場合でも病斑部への塗布は必ず行う。 2. 胴枯病の進行した枝は切除し、園外に持ち出し処分する。			
3月下旬～発芽前	ハダニ類 越冬病害虫 輪紋病 胴枯病	1. ハーベストオイル 2. 石灰硫黄合剤 又は、 トップジンM水和剤	水 (98ℓ) (石灰硫黄合剤を使用する場合) 50倍(2ℓ) 10倍(10ℓ) 1,000倍(100g)	発芽前 発芽前 前日まで	- - 6回以内	1. 胴枯病の見られる園は石灰硫黄合剤を使用する。先にハーベストオイルを溶かしてから石灰硫黄合剤を混用し直ちに散布する。 2. 前年カイガラムシ類幼虫の発生した園では、アプロードフロアブル 1,000倍(収穫30日前、2回以内)を加用する。	／		
4月下旬 (開花直前)	黒斑細菌病 心腐れ症(胴枯病菌) シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. デランフロアブル 2. サムコフロアブル10	1,000倍(100cc) 5,000倍(20cc)	60日前まで 前日まで	4回以内 3回以内	1. デランフロアブルは、散布時間により葉斑が出る場合があるので乾きやすい時に散布する。	／		
4月下旬(1回目)	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン		10a当り100本を設置		詳細は2ページを参照			
5月上旬 (満開10日後)	黒斑細菌病 心腐れ症(胴枯病菌) (アブラムシ類) (シンクイムシ類) (ハマキムシ類)	1. デランフロアブル	1,000倍(100cc)	60日前まで	4回以内	1. アブラムシ類発生園ではウララDF 2,000倍(収穫14日前まで、2回以内)を加用する。 2. シンクイムシ類、ハマキムシ類発生園ではフェニックスフロアブル 4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。 3. 胴枯病は、この時期から胞子の飛散が始まるので防除間隔をあげないように注意する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
5月中～下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 アブラムシ類 カメムシ類	1. オキシラン水和剤 2. ベンレート水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. (バイカルティ)※2	600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで 前日まで -	9回以内 4回以内 3回以内 -	1. 胴枯病の萎凋枯死花そうや、枯死枝を除去し、焼却する。 胴枯病患部の削り取り痕や太枝の切り口にバッチレート(せん定時及び患部削り取り直後、3回以内)を塗布する。	／		
6月上旬	輪紋病 胴枯病 アブラムシ類 (シンクイムシ類)	1. スクレアフロアブル 2. ウララDF 3. (バイカルティ)※2	3,000倍(33.3cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 14日前まで -	3回以内 2回以内 -	1. 黒斑細菌病の果実や枝は徹底して切除して処分する。 2. シンクイムシ類発生園ではウララDFに替えてスカウトフロアブル※1 2,000倍(前日まで、5回以内)を散布する。	／		
6月中旬	輪紋病・胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. ベンレート水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. ダニコングフロアブル 5. (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	- 前日まで 前日まで 前日まで -	- 4回以内 3回以内 1回 -	1. この時期より雨が多い場合は輪紋病の感染が多くなるので散布間隔をあげないように注意する。	／		
6月下旬	病 の 重 点 防 除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. テルスターフロアブル※1 4. (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 600倍(166.6g) 3,000倍(33.3cc) 1,000倍(100g)	- 3日前まで 前日まで -	- 9回以内 2回以内 -	1. オキシラン水和剤は、おうとうへの飛散に注意する。 2. 降雨前防除を基本とするが、強い雨で薬液が乾く前に流された時は再散布する。 3. この時期は、特に適量散布に留意する。	／	
		輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. インダーフロアブル 3. ダントツ水溶剤 4. ダニコングフロアブル	2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)	- 7日前まで 前日まで -	- 3回以内 3回以内 1回		／	
7月上旬	輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫	1. アビオン-E(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. ダイアジン水和剤34 4. (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	- 3日前まで 14日前まで -	- 9回以内 6回以内 -	1. シンクイムシ類の発生が見られる園では防除間隔があかないように注意する。 2. ナリアWDGはル レクチェの果実に葉害が生じるおそれがあるので、混植園ではファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで、3回以内)に替えて散布する。 3. 降雨が続く場合や強い降雨の後は、次回散布まで間隔をあげない。	／		
7月中旬	輪紋病 シンクイムシ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. ナリアWDG 3. ダントツ水溶剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g)	- 前日まで 前日まで	- 3回以内 3回以内		／		
7月下旬(2回目)	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. アビオン-E(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. オリオン水和剤40 4. マイトコーネフロアブル (バイカルティ)※2	2,000倍(50cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g)	3日前まで 3日前まで 3日前まで 前日まで	- 9回以内 2回以内 1回 -	1. カメムシ類の発生園ではオリオン水和剤40に替えて、テルスター水和剤※1 1,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。	／		
7月下旬(2回目)	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン		10a当り50本を追加設置		詳細は2ページを参照			
7月下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. トップジンM水和剤 2. オキシラン水和剤 3. モスピラン顆粒水溶剤 4. (バイカルティ)※2	1,500倍(66.6g) 600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 3日前まで 前日まで -	6回以内 9回以内 3回以内 -		／		
8月上旬	シ ク イ ム シ	輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 (ハダニ類)	1. オキシンドー水和剤80 2. バイスロイドEW※1	1,200倍(83.3g) 2,000倍(50cc)	3日前まで 7日前まで	9回以内 2回以内	1. りんごつがるの隣接園では8月5日頃までに終了する。(オキシンドー水和剤80はりんごで収穫14日前まで) 2. ナシヒメシンクイは桃、スモモなどの心折れが見られる場合は特に注意し、8月から9月中旬まで散布間隔を10日以上開けないようにする。 3. ハダニ類の発生がみられた場合はコロマイト水和剤2,000倍(前日まで、1回)を加用散布する。コロマイト水和剤はおうとう、ももに登録がないので飛散させない。 4. ベルクート水和剤は扁桃種、ル レクチェに葉害のおそれがあるので飛散させない。	／	
8月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ベルクート水和剤 2. アーデントフロアブル※1	1,000倍(100g) 2,000倍(50cc)	14日前まで 前日まで	5回以内 3回以内		／		
8月下旬	輪紋病・胴枯病 シンクイムシ類	1. フリントフロアブル25 2. バリアード顆粒水和剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	4回以内 3回以内		／		
8月下旬	シ	輪紋病、胴枯病 シンクイムシ類	1. トップジンM水和剤 2. エクシレルSE	1,500倍(66.6g) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	6回以内 3回以内	1. 早生種(オーロラ等)、中生種(バラード等)はトップジンM水和剤に替えてオキシンドー水和剤1,200倍(3日前、9回以内)を使用する。なお、他樹種への飛散に注意する。	／	
9月上旬	重 点 防 除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. オキシンドー水和剤80 2. アグロスリン水和剤※1	1,200倍(83.3g) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで	9回以内 3回以内	1. ナシヒメシンクイの発生、産卵時期なので、散布むらのないようにていねいに散布する。	／	
9月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. アグロスリン水和剤※1	3,000倍(33.3g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内		／		
9月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ストライド顆粒水和剤 2. バリアード顆粒水和剤	1,500倍(66.6g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	1. 葉害防止の為、高温時(25度以上)の散布は避ける。 2. ストライド顆粒水和剤は日本なしに登録がないので飛散させない。	／		
9月下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類、ハマキムシ類	1. スクレアフロアブル 2. ヨーバルフロアブル	3,000倍(33.3cc) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内		／		
収穫後	黒斑細菌病	1. アビオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	1. 収穫が終わっていない他樹種へ飛散させない。	／		
落葉後	越冬病害虫	1. 石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	-		／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。 オーツサイド水和剤80、キャブレート水和剤、オキシラン水和剤などキャブタンを含む剤の使用基準は合計で9回以内である。 オキシラン水和剤、オキシンドー水和剤80、キノンドーフロアブルなど有機銅を含む剤の使用基準は合計で9回以内である。 ※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。
※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

西洋なし(ラ・フランス)

黒星病特別防除 りんご

ふじ 発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
3.31 4.10 4.29 5.3 5.9 11.21

平年値 (東根市神町) 北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数) を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期	腐らん病(黒星病)→ ハダニ類 カイガラムシ類幼虫→	水	98ℓ	1. ベフラン液剤25 1,000倍(100cc) 2. ハーベストオイル 50倍(2ℓ) 3. アプロードフロアブル 1,000倍(100cc)	休眠期 芽出し直前直後 30日前	6回以内 2回以内	400ℓ	1. この回は、発芽前までに散布する。又、発芽した西洋なしに薬害の心配があるので飛散させない。	/	
(発芽10日後) 展葉期(頂芽の葉が1~2枚展葉した頃)	黒星病 モノリア病 (褐斑病、炭そ病、斑点落葉病)	1. ストライド顆粒水和剤	1,500倍(66.6g)	開花前まで	2回以内	400ℓ	1. ストライド顆粒水和剤に替えてICボルドー412 30倍を散布してもよい。その場合ハーベストオイル散布後3日以上間隔をあける。 2. 休眠期防除を行えなかった園地ではアプロードフロアブル1,000倍(30日前まで、2回以内)を混用散布する。	/		
展葉3~4葉 (4月中旬~下旬)	黒星病、褐斑病 炭そ病(輪紋病) 斑点落葉病 モノリア病	1. ジマンダイセン水和剤	600倍(166.6g)	30日前まで	3回以内	400ℓ	1. ジマンダイセン水和剤に替えてICボルドー412 30倍を散布してもよい。	/		
開花直前	黒星病 うどんこ病 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1. カナメフロアブル 2. デランフロアブル 3. サムコフロアブル10	4,000倍(25cc) 2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc)	前日まで 60日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 3回以内	400ℓ		/		
前回散布後 10日以内	黒星病 斑点落葉病 モノリア病 褐斑病、赤星病	1. ミギワ20フロアブル 2. ジマンダイセン水和剤 3. (バイカルティ) ^{*2}	4,000倍(25cc) 600倍(166.6g) 1,000倍(100g)	前日まで 30日前まで	3回以内 3回以内	400ℓ	1. 黒星病の初発時期なのでこの回以降10日間以上防除間隔をあけない。 2. この回以降6月上旬までは、さび果や生理落花などが発生しやすいので各種乳剤は使用しない。 3. おうとうに隣接していない園では品質向上のためバイカルティを加用する。 4. 薬害防止のため、高温時の散布は避ける。	/		
前回散布後 10日以内	黒星病、褐斑病、斑点落葉病 ハマキムシ類 キンモンホソガ (アブラムシ類)	1. デランフロアブル 2. フェニックスフロアブル 3. (バイカルティ) ^{*2}	2,000倍(50cc) 4,000倍(25cc) 1,000倍(100g)	60日前まで 前日まで	3回以内 2回以内	400ℓ	1. アブラムシ類の発生園ではウララD F 2,000倍(14日前まで、2回以内)を加用する。	/		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
前回散布後 10日以内	腐らん病、モノリア病 輪紋病、黒星病 褐斑病、黒点病 斑点落葉病、炭そ病 カメムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	1. トップジンM水和剤 2. ファンタジスタ顆粒水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. (バイカルティ) ^{*2}	1,500倍(66.6g) 3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで	(散布は6回以内) 3回以内 3回以内	500ℓ	1. 高温時や薬液が乾きにくい夕方などの散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2. リンゴワタムシが発生している園ではていねいに散布する。 3. カイガラムシ類幼虫(サンホーゼカイガラムシ)の多い園はアプロードフロアブル1,000倍(30日前まで、2回以内)をていねいに散布する。	/		
おうとうの隣接園では、以後おうとうの収穫が終わるまで展着剤とバイカルティを加用しない。										
6月上旬	モノリア病 黒星病 黒点病 斑点落葉病 うどんこ病 カイガラムシ類、アブラムシ類 リンゴワタムシ	1. スコア顆粒水和剤 2. トレノックスフロアブル 3. トランスフォームフロアブル 4. (バイカルティ) ^{*2}	3,000倍(33.3g) 500倍(200cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	14日前まで 30日前まで 前日まで	3回以内 5回以内 3回以内	500ℓ	1. 黒点病防除の重要な時期である。	/		
6月中旬	黒星病、褐斑病 炭そ病、腐らん病 斑点落葉病 輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類	1. ナリアWDG 2. バリアード顆粒水和剤 3. (バイカルティ) ^{*2}	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. ナリアWDGは西洋なしのルレクチエの果実や、ぶどうピオーネの葉に薬害を生じることがあるので注意する。	/		
6月下旬	斑点落葉病、黒星病 褐斑病、輪紋病 アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハダニ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. スカウトフロアブル ^{*1} 3. ダニオーテフロアブル	3,000倍(33.3g) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	3回以内 5回以内 1回	500ℓ	1. 殺ダニ剤は3~4日前に草刈りをしてから使用する。 2. ダニ剤の効果を持続させるため、次回散布まで10日あける。	/		
7月上旬	斑点落葉病 輪紋病 褐斑病、黒星病 すす点病、すす斑病 炭そ病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1. オキシラン水和剤 2. パレード15フロアブル 3. エクシレルSE 4. (バイカルティ) ^{*2}	600倍(166.6g) 2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	14日前まで 前日まで 前日まで	4回以内 2回以内 3回以内	500ℓ	1. 降雨の多い場合は散布間隔をあけない。 2. ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで)を混用する。	/		
7月中~下旬	黒星病、褐斑病 斑点落葉病、輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ カイガラムシ類 ナミハダニ、リンゴハダニ	1. パレード15フロアブル 2. エクシレルSE	2,000倍(50cc) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	500ℓ	1. 殺ダニ剤は3~4日前に草刈りをしてから使用する。 2. 前回の殺ダニ剤散布から1か月以上間隔を開けない。 3. ハダニ類の発生がみられる園地ではアカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで)を混用する。 4. キンモンホソガの発生がみられる園地ではデミリン水和剤2,000倍(30日前まで、3回以内)を単用散布する。ただし、早生種では収穫前日数に注意する。	/		
8月上旬	輪紋病、炭そ病 すす点病 すす斑病 黒星病 褐斑病 斑点落葉病 カメムシ類、シンクイムシ類 キンモンホソガ、ハダニ類	1. ダイパワー水和剤 2. アーデントフロアブル ^{*1}	1,000倍(100g) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. 高温時や薬液が乾きにくい時間帯(極早朝、降雨後の翌朝、夕方など)の散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2. ハダニ類が発生した場合はコロマイト乳剤1,000倍(前日まで、1回)を単用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のもものに飛散させない。	/		
状況 8月上~中旬	斑点落葉病 (褐斑病)	1. ユニックス顆粒水和剤47	1,500倍(66.6g)	14日前まで	4回以内	500ℓ	1. 降雨の多い場合、単用散布をする。ただし、収穫前日数に注意する。	/		
8月中~下旬	斑点落葉病 黒星病、褐斑病 輪紋病 すす点病 すす斑病 アブラムシ類、シンクイムシ類	1. ベルクートフロアブル 2. モスピラン顆粒水溶剤	1,000倍(100cc) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. 次回の散布間隔をあけすぎない。 2. ハダニ類が見られる園地では、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで)を1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布する。 3. 炭そ病が見られる園地では、ベルクートフロアブルに替えてオーソサイド水和剤80 800倍(前日まで、6回以内)を散布する。	/		
9月上旬 (中・晩生種のみ)	斑点落葉病 黒星病、炭そ病 すす点病、褐斑病 すす斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. オーソサイド水和剤80 2. ロディー水和剤 ^{*1}	800倍(125g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	6回以内 2回以内	500ℓ	1. 例年すす点病のみみられる園地ではオーソサイド水和剤80に替えてツインバリアー水和剤1,000倍(前日まで、3回以内)を使用する。ただし、他樹種へ飛散させない。	/		
9月下旬~10月上旬 (晩生種のみ)	斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 シンクイムシ類	1. ストライド顆粒水和剤 2. ヨーバルフロアブル	1,500倍(66.6g) 10,000倍(10cc)	開花から前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1. 晩生種のみ散布する。 2. 薬害防止のため高温時(25度以上)の散布をさける。 3. 西洋なし以外への飛散に注意する。	/		
収穫後 (落葉期前まで)	腐らん病 (黒星病)	1. アピオン-E(展着剤) 2. ベフラン液剤25 又は 石灰硫黄合剤	2,000倍(50cc) 1,000倍(100cc) 10倍(10ℓ)	休眠期 又は 休眠期	6回以内	400ℓ	1. 腐らん病(黒星病)防除のため必ず散布する。 2. アピオン-E等の固着性展着剤を加用すると流亡防止効果がある。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。オーソサイド水和剤、オキシラン水和剤などキャプタン剤の使用基準は合計で6回以内である。速度を上げて散布量を減らすことは絶対にしない。薬液が十分にかかる様に、剪定や間伐で通風採光を良くする。散布時期は生態に合わせる。中山間地は平地より数日遅れる。
※1 合成ピレスロイド剤は毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。 ※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

すもも

大石 発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
早生 3.28 4.17 4.15 4.20 5.1 7.5

園芸農業研究所平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農薬使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
3月下旬 (発芽前まで)	カイガラムシ類 ふくろみ病 越冬病害虫 ふくろみ病 ハダニ類	水 1. ハーベストオイル 2. トレノックスフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤	(98ℓ) (石灰硫黄合剤を使う場合90ℓ) 50倍(2ℓ) 500倍(200cc) 10倍(10ℓ)	発芽前 14日前まで 発芽前	- 3回以内 -	300ℓ	1. 発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発病することが多いので枝先までむらなく散布する。幼木にも必ず散布する。	/		
4月中旬 開花直前	黒斑 かいよう病 黒斑病	1. ICボルドー412	30倍(3.3kg)	-	-	300ℓ		/		
4月中～下旬	スモモヒメシンクイ ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				未結実園地にも設置する。 詳細は2ページを参照			
5月上旬 落花直後	灰星病	1. インダーフロアブル	5,000倍(20cc)	前日まで	4回以内	300ℓ	1. 散布は遅れないようにする。 2. ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘みとり、土中に深く埋める。	/		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
5月中～下旬	灰星病 黒斑病 カメムシ類 アブラムシ類	1. フルーツセイバー 2. マイコシールド 3. ダントツ水溶剤	1,500倍(66.6cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g)	前日まで 21日前まで 3日前まで	3回以内 3回以内 3回以内	400ℓ		/		
状況 5月下旬	カイガラムシ類幼虫	1. アプロードフロアブル	1,000倍(100cc)	14日前まで	2回以内	400ℓ		/		
6月中旬	灰星病 黒星病 ふくろみ病 シンクイムシ類	1. ナリアWDG 2. エクシレルSE	2,000倍(50g) 2,500倍(40cc)	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1. 灰星病の被害果は見つけ次第摘みとり、土中深く埋める。 2. ナリアWDGはル レクチエの果実やピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。	/		
6月下旬	灰星病 シンクイムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2. アーデントフロアブル ^{*1}	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	400ℓ				
7月上～中旬	灰星病 カイガラムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 (ハダニ類)	1. パスワード顆粒水和剤 2. モスピラン顆粒水溶剤	1,500倍(66.6g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1. パスワード顆粒水和剤を散布する場合は、おうとうに汚れが残ることがある。又、りんご、なしに飛散させない。 2. ハダニ類の発生が多い園ではダニゲッターフロアブル2,000倍(前日まで、1回)を混用散布する。	/		
7月下旬	灰星病 シンクイムシ類 アブラムシ類	1. インダーフロアブル 2. スカウトフロアブル ^{*1}	5,000倍(20cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	4回以内 3回以内	400ℓ		/		
8月上～中旬	灰星病、黒星病 カイガラムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. モスピラン顆粒水溶剤	3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1. 灰星病の被害果は見つけ次第摘みとり、土中に深く埋める。	/		
8月下旬 (晩生種)	灰星病 黒星病 シンクイムシ類	1. バレード15フロアブル 2. ディアナWDG	2,000倍(50cc) 5,000倍(20g)	前日まで 前日まで	2回以内 2回以内	400ℓ		/		
9月上旬 (晩生種)	シンクイムシ類	1. エクシレルSE	2,500倍(40cc)	前日まで	3回以内	400ℓ				
収穫後	黒斑病	1. アビオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	400ℓ		/		
状況収穫後	コスカシバ	1. トラサイドA乳剤	200倍(500cc)	収穫後～発芽前 (幼虫食入期)	2回以内	400ℓ	1. 樹幹部及び主枝に十分散布する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

ぶどう（大粒種）（露地、雨よけ）

シャインマスカット 発芽 4.29 展葉 5.4 開花始 6.10 満開 6.16 落花 6.20 収穫盛 10.10

平年値（東根市若木）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農薬使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数) を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
3月下旬 (休眠期)	黒とう病 晩腐病 (ブドウトラカミキリ)	1. デランフロアブル	200倍(500cc)	休眠期	1回	300ℓ	1. 休眠期の防除は、必ず粗皮削りをしてから枝の先まで洗うようにていねいに散布する。 2. 前年の房の取り残し部分及び巻きひげなどの除去は晩腐病防除に重要であるから徹底する。 3. 前年ブドウトラカミキリの秋散布を実施しない園では、この時期トラサイドA乳剤 300倍(発芽前(休眠期)、2回以内)を加用する。また、周辺の訪花昆虫保護のため3月下旬までに散布を終えること。 4. 樹幹害虫対策 ロビンフード(前日まで、5回以内)を食入孔にノズルを差し込み噴射する。	/		
4月中旬 (発芽前)	ハダニ類 サビダニ類	1. 石灰硫黄合剤	20倍(5ℓ)	発芽前	-	300ℓ	1. 他樹種に飛散させない。	/		
5月上旬 (展葉2~3枚)	黒とう病 べと病 晩腐病 褐斑病 (ツマグロアオカスカメ)	1. ホライズンドライフロアブル 2. ジマンダイセン水和剤	2,500倍(40g) 1,000倍(100g)	21日前まで 45日前まで	3回以内 2回以内	200ℓ	1. ホライズンドライフロアブルは小豆大以降は散布しない。又、他樹種に飛散させない。 2. ツマグロアオカスカメの発生が心配される園地では、ウララDF 2,000倍(開花前まで、2回以内)を散布する。	/		
5月中旬	黒とう病 べと病	1. デランフロアブル	1,000倍(100cc)	落弁期まで (但し、収穫75日前まで)	2回以内	200ℓ				
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
5月下旬	べと病 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	1. リドミルゴールドMZ 2. アグロスリン水和剤*1	1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	45日前まで 21日前まで	2回以内 5回以内	200ℓ	1. リドミルゴールドMZは他樹種に飛散させない。	/		
状況	スカシバ類	1. バダンSG水溶剤	1,500倍(66.6g)	21日前まで	5回以内	200ℓ	1. 散布は樹幹散布とし、他樹種に飛散させない。 なお、ぶどうは大粒種しか登録がない。	/		
6月上旬 (開花直前)	べと病 黒とう病 灰色かび病 うどんこ病 ハダニ類	1. ランマンフロアブル 2. オンリーワンフロアブル 3. ダニコングフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	14日前まで 前日まで 前日まで	3回以内 3回以内 1回	300ℓ	1. コウモリガの発生が見られる園では樹幹周辺を清掃し、捕殺する。 2. 着粒不良の恐れがあるので、満開期の散布は避ける。 3. ランマンフロアブルは他樹種に飛散させない。	/		
6月中~下旬 (落花直後)	黒とう病 褐斑病 さび病 灰色かび病 べと病 チャノキイロアザミウマ ハスモンヨトウ ブドウサビダニ	1. パレード15フロアブル 2. ベトファイター顆粒水和剤 3. グレーシアフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 4,000倍(25cc)	7日前まで 30日前まで 14日前まで	2回以内 3回以内 2回以内	300ℓ	1. 前年晩腐病の発生が見られた園では、本剤散布後直ちに笠掛をする。 2. 果粉溶脱防止のため、大きさが小豆大までとする。又、浸透性のある展着剤は使用しない。 3. 他樹種に飛散させない。	/		
状況 6月下旬~ 7月上旬	べと病	1. ランマンフロアブル	2,000倍(50cc)	14日前まで	3回以内	300ℓ	1. 降雨が続く場合散布する。 2. ランマンフロアブルは他樹種に飛散させない。	/		
7月上~中旬	褐斑病 晩腐病 灰色かび病 黒とう病 うどんこ病、さび病 カメムシ類 コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ (ハダニ類)	1. オンリーワンフロアブル 2. テッパン液剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	250ℓ	1. ハダニの発生がみられる園ではコロマイト水和剤2,000倍(7日前まで、2回以内)を加用する。	/		
7月下旬	晩腐病、黒とう病 灰色かび病、さび病 アザミウマ類 コガネムシ類 ハダニ類 フタテンヒメヨコバイ	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. アーデントフロアブル*1	3,000倍(33.3g) 2,000倍(50cc)	14日前まで 前日まで	3回以内 4回以内	250ℓ	1. この回以降デラウェアなどに飛散しないように特に注意する。	/		
8月中旬 (袋かけ後)	べと病・黒とう病 さび病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類	1. ICボルドー66D 2. ダントツ水溶剤	50倍(2kg) 2,000倍(50g)	- 前日まで	- 3回以内	250ℓ	1. 他樹種へ飛散させない。 2. ICボルドー66Dによる汚れ回避として、オロンディスウルトラSC 2,000倍(14日前まで、2回以内)に替えてもよい。(登録はべと病のみ)	/		
収穫後	べと病 さび病	1. ICボルドー66D	50倍(2kg)	-	-	250ℓ		/		
11月中旬	ブドウトラカミキリ	1. トラサイドA乳剤	300倍(333cc)	発芽前(休眠期)	2回以内	300ℓ	1. 幼虫期をねらって結果枝に十分散布する。隣接して収穫前のりんごがある園では、りんごの収穫後に散布する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
ハウスや雨よけ栽培では暦日でなく生育に合わせて散布する。
農薬登録上の大粒種とは、デラウェア、やまぶどう以外の品種をさす。
※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

ぶどう(デラウェア)(露地、雨よけ)

発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
4.25 4.30 6.4 6.8 6.12 8.16

平年値(東根市関山)北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用濃度						
			収穫前 使用時期	総使用 回数											
休眠期						露地栽培で晩腐病が多い場合は、トップジンMペースト3倍(休眠期(萌芽前)3回以内)を結果母枝を主体に塗布する。									
3月下旬 (休眠期)	晩腐病 黒とう病 (ブドウトラカミキリ)	1. デランフロアブル	200倍(500cc)	休眠期	1回	300ℓ	1. 休眠期の防除は、必ず粗皮削りをしてから散布する。 2. 前年の房の取り残し部分及び巻ひげなどの除去は晩腐病防除に重要であるから徹底する。 3. 前年ブドウトラカミキリの秋散布を実施しない園では、この時期トラサイドA乳剤300倍(発芽前(休眠期)、2回以内)を加用する。また、周辺の訪花昆虫保護のため3月下旬までに散布を終えること。	/							
状況5月上旬 (展葉2~3枚)	ツマグロアオカスミカメ	1. ウララDF	2,000倍(50g)	開花前まで	2回以内	200ℓ	1. ツマグロアオカスミカメの発生が心配される園では散布する。								
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする															
5月中~下旬 (展葉4~5枚)	晩腐病 べと病 褐斑病 黒とう病 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	1. ホライズンドライフロアブル 2. アグロスリン水和剤*1	2,500倍(40g) 1,000倍(100g)	21日前まで 21日前まで	3回以内 5回以内	200ℓ	1. 前年晩腐病が発生した園地では、枝かけ具(バンシャット)を設置する。 2. ホライズンドライフロアブルは他樹種に飛散させない。	/							
6月上旬 (第1回ジベ 処理直後)	晩腐病 べと病	1. オーシャイン水和剤 2. オーソサイド水和剤80	2,000倍(50g) 800倍(125g)	7日前まで 30日前まで	2回以内 3回以内	250ℓ		/							
6月中旬 (落花直後)	黒とう病 褐斑病 さび病 灰色かび病 べと病 アザミウマ類 ハスモンヨトウ ハマキムシ類	1. パレード15フロアブル 2. ベトファイター顆粒水和剤 3. ディアナWDG	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 5,000倍(20g)	7日前まで 30日前まで 前日まで	2回以内 3回以内 2回以内	250ℓ	1. 晩腐病が発生する園地では果房に笠掛を行う。	/							
6月下旬 (第2回ジベ 処理直後)	晩腐病 黒とう病、さび病 灰色かび病	1. ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍(33.3g)	14日前まで	3回以内	300ℓ	1. 汚染防止のため、この回以降は展着剤を使用しない。 2. 6月下旬になると晩腐病の胞子が雨によって飛散することが多くなるので、いねいに散布する。	/							
7月上旬	黒とう病 晩腐病 褐斑病 灰色かび病 さび病 (コガネムシ類成虫) (カイガラムシ類) (ハダニ類)	1. オンリーワンフロアブル	2,000倍(50cc)	前日まで	3回以内	250ℓ	1. とび玉が入る迄に散布する。 2. さび病、べと病、褐斑病の多発する園では7月上旬、中旬、下旬の3回下記薬剤を棚上散布する。雨が多い場合は引き続き8月上旬まで棚上散布する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>棚上散布薬剤(100ℓ当たり薬量)</th> <th>散布量</th> </tr> <tr> <td>Zボルドー 500倍(200g)</td> <td rowspan="2">300ℓ</td> </tr> <tr> <td>クレフノン 100倍(1kg)</td> </tr> </table> 3. コガネムシ類成虫、カイガラムシ類の発生した園ではモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(14日前まで、3回以内)を散布する。 4. ハダニ類の発生が見られる園では、コロマイト水和剤2,000倍(7日前まで、2回以内)を加用する。	棚上散布薬剤(100ℓ当たり薬量)	散布量	Zボルドー 500倍(200g)	300ℓ	クレフノン 100倍(1kg)	/		
棚上散布薬剤(100ℓ当たり薬量)	散布量														
Zボルドー 500倍(200g)	300ℓ														
クレフノン 100倍(1kg)															
収穫直後	べと病 コガネムシ類成虫 フタテンヒメヨコバイ ブドウトラカミキリ	1. ICボルドー66D 2. スミチオン水和剤40	25倍(4kg) 1,000倍(100g)	- 90日前まで	- (収穫終了後から萌芽までは2回以内)	250ℓ	1. キクイムシは樹勢が弱ると多くなるので樹勢維持に注意する。なお、発生が見られた園では、見つけ次第捕殺する。 2. 他樹種に飛散させない。 3. スミチオン水和剤40は収穫前日数が長いので、収穫前の大粒種へ飛散させない。	/							
状況9月上~中旬	べと病	1. ICボルドー66D	25倍(4kg)	-	-	250ℓ	1. 降雨が続く場合散布する。	/							
11月中旬	ブドウトラカミキリ	1. トラサイドA乳剤	300倍(333cc)	発芽前	2回以内 (休眠期)	300ℓ	1. 幼虫期をねらって結果枝に十分散布する。隣接して収穫前のりんごがある園では、りんごの収穫後に散布する。	/							

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
ハウスや雨よけ栽培では暦日でなく生育に合わせて散布する。
※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。

果樹の耕種的・物理的防除技術一覧

山形県病害虫防除基準を参考

共通

園地の角などの薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬剤が隅々まで到達しやすいようにする。密植園は間伐し、日当たり、風通し、作業性を良くする。

- ・シンクイムシ類：被害果は1週間以上水漬けするか、土中に埋めて処分する。ナシヒメシンクイの芯折れ枝は見つけ次第基部からせん除し土中に埋める。
- ・ハダニ類：休眠期に粗皮削りをする。ナミハダニは5月下旬以降、草刈りを徹底する。
- ・コウモリガ：幼木では特に幹周辺をきれいにしておく。
- ・カイガラムシ類：休眠期に粗皮削り、金ブラシ掛け、高圧水洗浄や生育期の捕殺を行う。
- ・キクイムシ：樹勢を弱らせない。枝の枯れこみ、ホゾは切除する。

りんご、西洋なし

- ・赤星病：栽培地周辺には「かいずかいぶき」等のびやくしん類を植栽しない。
- ・炭そ病：周辺に寄生植物のニセアカシアやシナノグルミがあると、伝染源になるので植栽しない。
- ・輪紋病：休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、埋設処分する。
- ・胴枯病：凍寒害、野そ害、移植植え痛み等での樹勢低下で発病しやすい。樹勢は強めに保ち、ほぞ残し剪定でも胴枯れの侵入門戸となるので、枝は基部から切り落とす。

りんご

- ・腐らん病：別紙参照 (p.12)
- ・黒星病：別紙参照 (p.12)
- ・うどんこ病：発病した新梢や花そうは摘み取り埋設する。
- ・モニリア病：発病した花、葉、花そう、幼果は摘み取り埋設する。
- ・斑点落葉病：梅雨時頃から余分な徒長枝を切除する。
- ・リンゴワタムシ：被害枝の切除、粗皮削りを行い、除去した枝や粗皮は埋設する。

西洋なし

- ・ハマキムシ類：被害葉の摘み取り、捕殺を行う。
- ・黒斑細菌病：前年発生が見られた園では、1輪摘果を行わず花そう摘果を行ない、5月下旬以降予備摘果を行なうとともに、感染が終息する梅雨明け後に仕上げ摘果を行なう。又、感染した枝、果実は、徹底して切除し処分する。
- ・胴枯病：別紙参照 (p.13)

ぶどう

- ・晩腐病：施設栽培にし6月中旬までに被覆する。露地栽培では5月下旬までに枝かけ具を設置するとともに6月中旬までにカサかけを行う。発病果は見つけ次第摘み取る。休眠期に房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部分を切除する。
- ・黒とう病：施設栽培にし発芽までに被覆する。休眠期に房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部分を切除する。発芽までに枝かけ具を設置する。
- ・褐斑病：休眠期に落葉処理、粗皮削りを行う。
- ・灰色かび病：施設栽培では多湿にしない。谷間の果房には落花直後までにカサかけを行う。
- ・トラカミキリ：剪定枝は5月下旬までに埋設か焼却する。見つけ次第捕殺する。
- ・マメコガネムシ：7月下旬～8月中旬にポリ容器等へ捕殺する。

おうとう、もも、すもも

- ・灰星病：被害花、被害果、被害葉は摘除して埋設する。開花期前後園地が過湿にならないようにする。樹冠下は清耕栽培とする。
- ・コスカシバ：食入したところから虫ふんヤニが出ているので、見つけ次第針金等で捕殺するか、木槌、金槌でたたいて圧殺する。

もも

- ・せん孔細菌病：別紙参照 (p.13)

おうとう

- ・炭そ病：枯死枝や被害果は摘除し埋設処分する。
- ・アルタナリア果実腐敗症（黒斑病）：収穫が遅れないようにする。
- ・黒かび病：収穫が遅れないようにする。
- ・樹脂細菌病：別紙参照 (p.14)
- ・ショウジョウバエ：被害果は放置しないで地中に埋設する。収穫が遅れるほど被害が増える。果実の取り残しをしない。

すもも

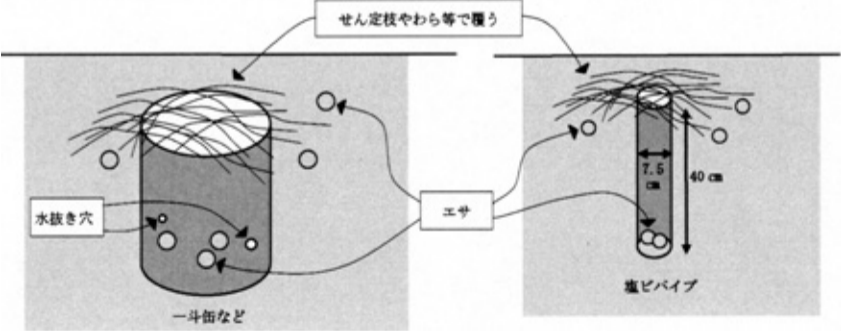
- ・ふくろみ病：被害果は見つけ次第摘み取り埋設する。

雑草防除：樹冠下を浅く中耕する。全面耕耘でなく樹冠下とし、他は草生草刈する。

野 ね ず み の 駆 除

以下の諸対策を併用すると効果が高いので総合的に実施する

(県病害虫防除基準から引用)

時 期	方 法	注 意 事 項																																																						
秋 季 (根 雪 前) 春 季 夏 季	1. 野ネズミが侵入・定着しないよう、圃場や周辺の清掃や隠れ場所となるような資材の撤去を行う。また、野ネズミの増殖を抑制するため、圃場内に餌となる作物残渣を残さない。 2. 水田、畑地、果樹園、桑園は下記の薬剤により防除する。 3. 殺そ剤を使用する場合は、確実にネズミ穴に投入する。 (1) ダイファシン系剤 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬 剤 名</th> <th colspan="2">ネズミ穴投入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ヤソヂオン (小袋) (劇)</td> <td style="width: 30%;">5g袋</td> <td style="width: 40%;">40~60包/10a</td> </tr> <tr> <td>10g袋</td> <td>20~30包/10a</td> </tr> </tbody> </table> (200~300g/10a) (2) リン化亜鉛剤 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬 剤 名</th> <th>ネズミ穴投入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Z・P (劇)</td> <td>30~500g/10a</td> </tr> <tr> <td>強力ラテミン (3%粒剤) (劇)</td> <td>1~2g (15~30粒) /穴</td> </tr> <tr> <td>メリーネコ1号 (劇)</td> <td>5~10粒/穴</td> </tr> <tr> <td>ラテミンリン化亜鉛1% (小袋)</td> <td>15~30包/10a (30~60g/10a)</td> </tr> </tbody> </table> (3) クマリン系剤 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬 剤 名</th> <th>ネズミ穴投入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラットシードF</td> <td>5~10g/穴 (5g袋 1~2包/穴)</td> </tr> <tr> <td>粉末ラテミン</td> <td>毒餌法による (下記参照)</td> </tr> </tbody> </table> 毒餌法：穀類、果実、いも類等の固形物を材料 (餌) として、粉末ラテミンを粉衣したものの (毒餌) を直接又は防水紙に包んでネズミ穴に投入する。 ○具体的な調製事例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">毒餌となる固形物</th> <th rowspan="2">薬 量 (目安)</th> <th rowspan="2">調 製 方 法</th> </tr> <tr> <th>材料</th> <th>食用油</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粳 2kg</td> <td>50~100ml</td> <td>500g</td> <td rowspan="3">1. ビニール袋等に材料と油を入れ、全体に油がなじむようよく混ぜる。 2. 薬剤を加えてよく混ぜる。</td> </tr> <tr> <td>大豆 2kg</td> <td>50~100ml</td> <td>250~300g</td> </tr> <tr> <td>麦 2kg</td> <td>100ml</td> <td>400~500g</td> </tr> <tr> <td>りんご 2kg</td> <td>—</td> <td>250~300g</td> <td>1. 材料をネズミ穴に入るような大きさに刻む。 2. ビニール袋等に材料を入れ薬剤を加えてよく混ぜる。</td> </tr> </tbody> </table> (注意事項) 1. 毒餌の材料は、その地域や畑で野ネズミに好まれるものを選ぶ。 2. 食用油を添加すると材料と薬剤がなじみやすくなるとともに、野ネズミの毒餌に対する食いつきが良くなる。 3. りんご等の水分を含む材料を毒餌とする場合は、食用油を添加すると「ダマ」になり薬剤が均一に混ざらなくなるため使用しない。 4. 殺そ剤以外による駆除 (1) 捕獲器による駆除 (2) 簡易トラップ (落とし穴式捕獲器を含む) を利用した駆除法 10aあたり5~6カ所に、一斗缶や、塩ビパイプ等を上部1~2センチ残して地中に埋め、上部の穴をせん定枝やわらで広く覆い、時々捕殺を確認する。下図参照。  5. 忌避剤による防除 (殺そ剤や捕獲器と併用する) 根雪直前に幹周り半径約50cm範囲の落葉や雑草を取除き、下記の剤を均一に散粒し、レーキ等で表土と混和した後、鎮圧する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">作物名</th> <th style="width: 20%;">薬剤名</th> <th style="width: 20%;">使用量</th> <th style="width: 20%;">使用時期</th> <th style="width: 20%;">使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>りんご おうとう</td> <td>フジワン粒剤</td> <td>200g/樹</td> <td>根雪前</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table> 6. ハウス内作物の野ネズミ対策 (1) 野ネズミが侵入・定着しないよう、ハウス内には隠れ場所となるような資材を置かない。 (2) ハウスの外縁部は内側、外側とも踏み固めておく。 (3) 野ネズミが侵入した場合は、ネズミ穴や通路 (作物残渣を引き込んだり、フンが見られる場所) に金網製の「捕獲器」や「粘着板」を置いて捕殺する。 野ネズミは暗い場所に落ち着き、壁などに沿って移動する習性があるため、捕獲器は、壁面に肥料袋などで覆って置く。捕獲器の設置後数日は捕獲器周辺に餌をまいて捕獲器への警戒心を与えないように配慮する。 発生が多い場所では、周年設置して被害を防ぐことと、ハウス周辺の環境をきれいにし同時に防除対策も行う。	薬 剤 名	ネズミ穴投入量		ヤソヂオン (小袋) (劇)	5g袋	40~60包/10a	10g袋	20~30包/10a	薬 剤 名	ネズミ穴投入量	Z・P (劇)	30~500g/10a	強力ラテミン (3%粒剤) (劇)	1~2g (15~30粒) /穴	メリーネコ1号 (劇)	5~10粒/穴	ラテミンリン化亜鉛1% (小袋)	15~30包/10a (30~60g/10a)	薬 剤 名	ネズミ穴投入量	ラットシードF	5~10g/穴 (5g袋 1~2包/穴)	粉末ラテミン	毒餌法による (下記参照)	毒餌となる固形物		薬 量 (目安)	調 製 方 法	材料	食用油	粳 2kg	50~100ml	500g	1. ビニール袋等に材料と油を入れ、全体に油がなじむようよく混ぜる。 2. 薬剤を加えてよく混ぜる。	大豆 2kg	50~100ml	250~300g	麦 2kg	100ml	400~500g	りんご 2kg	—	250~300g	1. 材料をネズミ穴に入るような大きさに刻む。 2. ビニール袋等に材料を入れ薬剤を加えてよく混ぜる。	作物名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	りんご おうとう	フジワン粒剤	200g/樹	根雪前	2回以内	1. 天敵保護に留意する。 2. リン化亜鉛剤は急性毒性が強いので、ペットや家畜への二次的な危害を防止するため、家畜施設や住宅地周辺では使用しない。 3. 共同で一斉防除を実施すると効果的である。 4. 繁殖期前の春季と収穫後越冬準備期前の秋季の年2回防除を実施すると効果が高い。 5. 野ネズミは、たばこ、化粧、香水など人工的な臭いを強く警戒するため、毒餌調製時や薬剤投入時の取扱いの際には十分注意を払うとともに、必ず手袋を着用する。 6. 薬剤の投下量及び防除回数は、農薬使用基準の範囲内で野ネズミの生息数に応じて調節する。 7. 降雨が多い時期は、小袋の使用が効果的である。 8. 果樹園、桑園では、薬剤防除を行った後に樹幹部を金網、フェルト、杉葉等で平年の最大積雪深の高さまで巻き、防護する。
薬 剤 名	ネズミ穴投入量																																																							
ヤソヂオン (小袋) (劇)	5g袋	40~60包/10a																																																						
	10g袋	20~30包/10a																																																						
薬 剤 名	ネズミ穴投入量																																																							
Z・P (劇)	30~500g/10a																																																							
強力ラテミン (3%粒剤) (劇)	1~2g (15~30粒) /穴																																																							
メリーネコ1号 (劇)	5~10粒/穴																																																							
ラテミンリン化亜鉛1% (小袋)	15~30包/10a (30~60g/10a)																																																							
薬 剤 名	ネズミ穴投入量																																																							
ラットシードF	5~10g/穴 (5g袋 1~2包/穴)																																																							
粉末ラテミン	毒餌法による (下記参照)																																																							
毒餌となる固形物		薬 量 (目安)	調 製 方 法																																																					
材料	食用油																																																							
粳 2kg	50~100ml	500g	1. ビニール袋等に材料と油を入れ、全体に油がなじむようよく混ぜる。 2. 薬剤を加えてよく混ぜる。																																																					
大豆 2kg	50~100ml	250~300g																																																						
麦 2kg	100ml	400~500g																																																						
りんご 2kg	—	250~300g	1. 材料をネズミ穴に入るような大きさに刻む。 2. ビニール袋等に材料を入れ薬剤を加えてよく混ぜる。																																																					
作物名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数																																																				
りんご おうとう	フジワン粒剤	200g/樹	根雪前	2回以内																																																				

りんごの黒星病対策

地域ぐるみで防除を徹底しよう

1. 耕種的防除

- 早期発見につとめ、被害葉・被害果を摘みとり、焼却または埋没処分を行う。
- 被害落葉は翌年の一次伝染源になるため、収集し、適切に処分する。なお、ブロアー等を利用すると効率的に収集することができる。
- 落葉後から展葉期にかけて、園内の土壌表面に堆肥（1～2t/10a）を散布し（堆肥マルチ）、被害落葉を被覆する。
- 樹間間隔が狭い園地や枝葉の混み合っている園地では日当たりや風通しが悪く、樹冠内部への薬液のかかりも悪いため、縮間伐の実施や薬液の到達性を考慮した剪定を実施する。
- 放任園や育成園では特に発生しやすいので重点的に検診する。発生しやすい品種は王林>ふじ>紅玉である。

2. 薬剤防除によるポイント

- 一次感染時期にあたる展葉期から落花20日後並びに、二次感染時期にあたる病斑が見え始めてから梅雨明け（7月下旬頃）まで重点防除時期となるので、雨前散布を原則とし、散布間隔を10日以上あけない。
- さくらんぼの収穫時期は、散布間隔が長くなりやすいので十分注意する。
- 葉の両面にムラなくかかるように薬液は十分量（400ℓ/10a）散布する。
- 十分に薬液が届くように園地の通風採光を確保する。

りんご腐らん病対策

腐らん病はりんごの「がん」

地域ぐるみによる「腐らん病検診」を行い、早期防除対策を実施しよう。

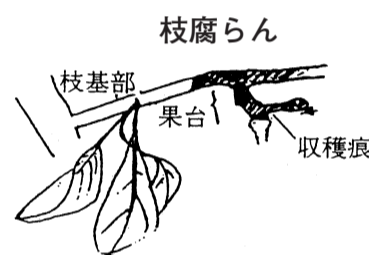
1. 枝腐らん

発生部位：1～6年生くらいの細い枝、せん定あと、果台（果実収穫痕）枝の先枯れ部および接ぎ木部からの感染が多い。

発生時期：通年発生するが、3月下旬頃から7月にかけて多く発生する。

病徴：初期は淡褐色の小病斑で枝の上下方向に進展する。進展時の病斑は周辺部が「火ぶくれ状」となり、病斑内に暗褐色の輪紋を生じて腐敗する時もある。

診断：発芽～展葉期にかけて、発芽しない枝や発芽後展葉してから葉が萎凋する（しおれる）枝の基部に「火ぶくれ状」の症状がみられる。



2. 洞腐らん

発生部位：主幹や主枝などの太い部分、大枝や発育枝のせん定した痕や分岐部が侵入門戸となる。

病斑進展：冬期間でも拡大するが、4月～6月の進展が大きい。秋口に好適な条件がくると再び進展する。

病徴：侵入門戸を中心に茶褐色の少し窪んだ病斑をつくり、押すと窪み、内部は醜酵臭（アルコール臭）がある。

3. 耕種的防除

- 枝腐らんの剪除、焼却、重傷被害樹の伐採焼却。樹勢を低下させない。大枝の日焼け防止対策を講ずる。

4. 薬剤による防除

春と秋に次の薬剤を用いて防除する。

- 春期休眠期間 剪定時の傷口、洞腐らん患部の削り取り痕にバッチレート（剪定時及び病患部削り取り直後、塗布は3回以内）またはトップジンMペースト（剪定時及び病患部削り取り直後、塗布は3回以内）を塗布する。

【発芽直前まで】

- 秋期休眠期間 石灰硫黄合剤10倍（休眠期）またはベフラン液剤25の1,000倍（休眠期、6回以内（但し、開花期以降散布は3回以内））に展着剤を加用して散布する。（11月中旬以降りんご収穫後）

【生育期の防除】

- 6月・7月頃 一輪摘果、仕上げ摘果後の果柄（軸）の傷口から侵入感染を防ぐために、ベンレート水和剤3,000倍（収穫前日まで、4回以内）またはトップジンM水和剤1,500倍（収穫前日まで、6回以内）を散布する。その際、枝幹部にも薬剤がかかるように十分散布する。但し、オウトウへ飛散しないように注意する。
- 5月～6月 病患部よりやや広範囲に削り取り、トップジンMオイルペースト（剪定時及び病患部削り取り直後、塗布は3回以内）を塗布する。（洞腐らん） 但し、細い枝には使用しない。

5. その他

被害樹の伐採。剪定に使用したハサミ、ノコギリ、チェーンソーは、消毒用アルコール（アルコール濃度70～80%）等で殺菌を行い使用する。

りんごの紋羽病対策

(県病害虫防除基準から引用)

		白 紋 羽 病	紫 紋 羽 病
耕種的防除法	予防法	1. 強せん定を避ける 2. 発育枝を利用して樹の若返りを図る。 3. 過度の着果を避ける。 4. 土壌の排水を良くするなど土壌改良や肥培管理に努め、樹勢を衰弱させないようにする。なお、未熟有機物の施用は発病を助長するので、完熟したもの以外は使用しない。 5. 本病の治療は発病の初期でないと、実際の効果は期待できず、それには早期発見が最も大切なので、わずかな病徴も見逃さないよう、常に園地を見回る必要がある。	
	治療法	腐朽している根は切除し、治療可能な根は病患部を削り取る。削り取った病患部は土に混ぜないように、あらかじめ作業前に紙を敷いておく。 下記のいずれかの方法による。	
薬剤防除法	苗木消毒	植え付け前にベンレート水和剤1,000倍液に10～30分間、またはトップジンM水和剤500倍液に10分間根部を浸漬する。	
	被害跡地の対策	(被害樹の跡に植付けする場合) 被害根はもちろん健全な根もていねいに除去し、以下のいずれかの方法により跡地の土壌消毒を行う。	
	被害跡地の対策	1. クロールピクリン 約60cmの深さに耕起、整地し、30cm×30cmごとの深さ30～40cmの位置に5～10mlを注入器を用いて注入し、直ちに覆土し、ポリエチレンで被覆し2～3週間放置する。植付け7～10日前に被覆を外し、ガス抜きを行う(粘質土壌ではガス抜きを2回行う)。なお、降雨の際はガス抜きを行わない。薬剤処理後30日間は薬害の恐れがあるので植付けを避ける。ガス抜きの際は周辺環境に十分注意し、ガスの拡散による危被害を防止する。 2. NCS 約60cmの深さに耕起、整地し、30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて、3～5mlを注入器を用いて注入し、直ちに覆土し、ポリエチレンで被覆し2～3週間放置する。植付け7～10日前に被覆をはずし、ガス抜きを行う(粘質土壌ではガス抜きを2回行う)。なお、降雨の際はガス抜きを行わない。薬剤処理後30日間は薬害の恐れがあるので植付けを避ける。 3. バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 被害樹を抜根した跡地と周辺部を含めて、できるだけ広めに1㎡当たり50～100gを散布し、深さ40cmに土壌と均一に混和する。混和後ビニール等で被覆する。20日後被覆を除去し、植付けは翌春に行う。なお、ガス抜きはていねいに行う。	

桃せん孔細菌病対策

1. 管 理

- (1) 風あたりの強い園では防風ネットを必ず設置する。
- (2) 樹勢が弱いと発生が多くなるので適正な樹勢の維持に努める。
- (3) 発生が多い園では、6月上旬までに袋かけを行う。
- (4) 台風通過等、強風を伴う降雨が予想される場合は、事前の薬剤防除を徹底する。

2. 早期発見

伝染源となる春型枝病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、園地を見回り早期発見に努める。なお、発病枝は見つけしだい基部からせん除し処分する。

3. 薬剤防除

- (1) 開花前にICボルドー412 30倍を散布する。
- (2) 落花後(5月上旬)から約10日間隔で2～3回、生育期防除薬剤のいずれかを散布する(下表)。多発園では、更に6月上旬以降2～3回散布する。なお、薬剤選定に当たっては下記に留意する。
 - ア. 耐性菌出現防止のため、抗生物質剤は有機殺菌剤と輪用散布する。
 - イ. 各薬剤(成分)の総使用回数を厳守する。ストレプトマイシンを含む薬剤の総使用回数は2回以内なので特に注意する。
 - ウ. 品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。特にストレプトマイシンを含む薬剤の使用は収穫60日前までとする。

(せん孔細菌病生育期防除薬剤)

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
抗生物質剤 (*印はストレプトマイシンを含む)	*アグレプト水和剤	1,000	収穫60日前まで	2回以内
	*アグリマイシン-100	1,500	収穫60日前まで	2回以内
	マイコシールド	2,000	収穫21日前まで	5回以内
	バリダシン液剤5	500	収穫7日前まで	4回以内
有機殺菌剤	トレノックスフロアブル	500	収穫7日前まで	5回以内
	デランフロアブル	600	収穫7日前まで	4回以内
	ペンコゼブ水和剤	600	収穫21日前まで	3回以内

ラ・フランス胴枯病対策

1. 耕種的防除

- (1) 萎凋枯死花そうや被害枝を徹底して切り取り焼却し、伝染源を減らす。
- (2) 樹勢を回復させる。

2. 薬剤による防除

- (1) 休眠期(春と秋の2回)に石灰硫黄合剤10倍液を、枝幹部を洗うように散布する。
- (2) 5月上旬から7月下旬にまでは、輪紋病と同時防除を行う。
- (3) 生育期の薬剤散布は、枝幹にもかかるように十分量散布する。
- (4) 病患部の削り取り痕や太枝の切り口にトップジンMペースト(塗布は3回以内)、パッチレート(塗布は3回以内)の原液またはペフラン塗布剤3(塗布は2回以内)の3倍液を塗布する。
- (5) 防除は幼木期から徹底する。

おうとう樹脂細菌病

- 症状
- 枝枯れ、芽枯れ及び葉に斑点を生じ、発病が甚だしい場合は樹が枯死する。
 - 枝では、はじめ小さい褐色病斑を生じ、拡大して紡錘形の病斑になり、ヤニを漏出したり病斑部に亀裂を生じる。褐変部直下の皮層は褐変するが、部位の周囲は水浸状になる。
 - 葉では、はじめ黄色ハローを伴う褐色不整形病斑を生じ、後に黒変する。発生は新梢先端葉に多い。
 - 枝での発病は展葉期から7月にかけて進展し、夏季は一時停滞し翌春再進展する。
- 発生要因
- 感染時期は主に冬期間である。
 - 徒長気味に生育した樹や風の強い園地で発生が多い傾向にある。
- 対策
- 充実した苗木を入手する。
 - 排水対策と防風対策を徹底する。
 - 樹脂の漏出は4月下旬頃から見られる。被害部（褐変部位）を削り取り直後トップジンMペースト（塗布は3回以内）又は、バッチレート（塗布は3回以内）を塗布する。
 - 薬剤対策
落葉後 石灰硫黄合剤10倍またはICボルドー66 D40倍

おうとうの灰星病等の越冬病害対策

- 休眠期間中の全面耕耘及びミイラ果の除去、埋設を行うとともに、地表面の乾燥をはかる。
- 開花直前に消石灰を10aあたり100kgを均一に散布する。

果樹の苗木消毒

- 果樹の改植や新植において、白紋羽病が発生する恐れがあるため、原則苗木植付前に根部浸漬処理をする。
- りんご、なし、ももの白紋羽病には「トップジンM水和剤」（1回）500倍液に10分間浸漬する。（予防効果のみ）
- りんごの白紋羽病には「ベンレート水和剤」1,000倍液に10～30分間浸漬する。

殺虫剤の対象害虫および効果

- (1) 対象害虫 ◎効果が高い ○効果がある () 作物の適用はある
 (2) 残効（記号は残効期間の目安を示す。） -：短い ○：1週間程度 ◎：10日程度

りんご

(県病害虫防除基準等から引用)

薬剤名	希釈倍数	対象害虫(1)										カメムシ類	
		モモンクイガ	ハマキムシ類	キンモンホリガ	ギンモンハモリガ	ケムシ類	シャクトリムシ	モモチャキリガムシ	クワコナカイガラムシ	アブラムシ類	リンゴワタムシ	残効(2)	
エルサン水和剤40	1,000倍	○	○	(○)		○	(○)	○	○	(○)		○	
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	○	○				○	○			○	-
スミチオン水和剤40	800倍	○	○		○			○	○			○	-
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	○	○	○		○	○	○	○	◎	(○)	(○)	-
オリオン水和剤40	1,000倍	○	○	○	○	○		○	○				
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	○		◎	◎			◎	◎	○3,000倍	○	◎	
アドマイヤー水和剤	2,000倍			◎	◎				◎	◎	(○)	○	
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	○		◎	◎			◎	◎		○	○	
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	○		◎	◎			◎	◎		○	○	
ダントツ水溶剤	2,000倍	○		◎	◎	○		◎	◎	◎	○	○	
バリアード顆粒水和剤	2,000倍	○		◎4,000倍	◎4,000倍			○4,000倍	◎4,000倍	○	○	◎	
モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	○		◎	◎	○2,000倍		◎	◎	◎2,000倍	◎2,000倍	○	
トランスフォームフロアブル	2,000倍							◎	◎	◎			
ウララDF	2,000倍								◎	◎	○		
コルト顆粒水和剤	3,000倍							○	◎	○			
トアロー水和剤CT	1,000倍		○			○							
バイオマックスDF	2,000倍		◎			◎	◎						
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍		◎			○	◎						
アタブロンSC	3,000倍		◎			○	○4,000倍						
デミリン水和剤	4,000倍	○2,000倍		◎	○	◎							
ノーモルト乳剤	4,000倍	○2,000倍		◎	○	○2,000倍	○						
ファルコンフロアブル	5,000倍		◎	○2,000倍		◎6,000倍	◎6,000倍						
マトリックフロアブル	1,000倍		○			◎2,000倍	◎2,000倍						
ロムダンフロアブル	1,500倍		◎			◎3,000倍	○3,000倍						
合成ピレスロイド剤		◎	(○)	◎成虫発生期							(○)	◎	
キラップフロアブル	2,000倍	○		○	○					○	○	◎	
コテツフロアブル	2,000倍		○	◎	(○)	◎					(○)		
エクシレルSE	5,000倍		◎	◎	◎	◎	◎						
サムコルフロアブル10	5,000倍	○	◎	◎	◎	◎	◎						
テッパン液剤	2,000倍	○	◎	◎	◎	◎							
フェニックスフロアブル	4,000倍	○	◎	◎	◎	◎	◎						
ヨーバルフロアブル	1万倍	○	◎	○	○		○5,000倍						
ディアナWDG	1万倍	○	◎	◎	○	◎	◎						
デリゲードWDG	1万倍	○	◎	◎	○	◎	◎						

シャクトリムシは若齢幼虫時に防除する。

殺虫剤の対象害虫および効果

(1) 対象害虫 ○効果が高い ○効果がある () 作物の適用はある
 (2) 残効 (記号は残効期間の目安を示す) - : 短い ○ : 1週間程度 ◎ : 10日程度

(県病害虫防除基準等から引用)

西洋なし

薬剤名	希釈倍数	対象害虫(1)					カメムシ類	
		モモンクイガ	ナシヒメジクイ	ハマキムシ類	アブラムシ類	カメムシ類	残効(2)	
エルサン水和剤40	1,000倍	○	○	○800倍	○	○		
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	○	○	○	(○)	-	
スミチオン水和剤40	800倍	○	○	○	○	○	-	
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	○	○	○	○	(○)	-	
オリオン水和剤40	1,000倍	○	○	○	○			
アクタラ顆粒水溶剤	3,000倍	◎2,000倍	◎2,000倍		◎	◎2,000倍	◎	
アドマイヤー水和剤	2,000倍				◎	◎1,000倍	○	
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
ダントツ水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
バリアード顆粒水和剤	2,000倍	○	○		◎4,000倍	○	◎	
ベストガード水溶剤	1,000倍				○	○	-	
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	○	
ウララDF	2,000倍				◎			
コルト顆粒水和剤	4,000倍				○			
チェス顆粒水和剤	5,000倍				○			
バイオマックスDF	2,000倍			◎				
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍			◎				
アタプロンSC	3,000倍			◎				
ノーモルト乳剤	2,000倍	○	○					
マトリックフロアブル	1,000倍			○				
合成ピレスロイド剤		◎	○	(○)	○	(○)	◎	
ハチハチフロアブル	2,000倍				○			
エクシレルSE	5,000倍	○	○	◎				
サムコルフロアブル10	5,000倍	○	○	◎				
フェニックスフロアブル	4,000倍	○	○	◎				
ディアナWDG	1万倍	○	○	◎				
デリゲードWDG	1万倍	○	○	◎				

もも

薬剤名	希釈倍数	対象害虫(1)						カメムシ類	
		アブラムシ類	モモンクイガ	ナシヒメジクイ	カイガラムシ類	モモハモグリガ	ハマキムシ類	カメムシ類	残効(2)
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	○	○	○	○	○	(○)	-
スミチオン水和剤40	1,000倍	○	○	○	○	○	○	○	-
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	○	○	○	○	(○)	○	(○)	-
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	◎3,000倍	○	○		◎	○	○	◎
アドマイヤー水和剤	1,000倍	◎				◎	○	○	
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	◎	○	○		◎	○	○	◎
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	◎	○	○		◎	○	○	◎
モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	◎	○	○	◎2,000倍	◎		◎2,000倍	○
デミリン水和剤	3,000倍		○	○		◎			
ノーモルト乳剤	2,000倍		○	○		◎			
ウララDF	2,000倍	◎							
チェス顆粒水和剤	5,000倍	○							
コテツフロアブル	2,000倍					◎		(○)	
ハチハチフロアブル	2,000倍	○	◎1,000倍	◎1,000倍		○			
エクシレルSE	5,000倍		○	○		◎	◎		
サムコルフロアブル10	5,000倍		○	○		◎	◎		
フェニックスフロアブル	4,000倍		○	○		◎	◎		
合成ピレスロイド剤		○	◎	○		◎		(○)	◎

おうとう

薬剤名	希釈倍数	対象害虫(1)					カメムシ類	
		オウトウハマダラミバエ	カイガラムシ類	ハマキムシ類	ケムシ類	オウトウショウジョウバエ	カメムシ類	残効(2)
サイアノックス水和剤	1,000倍				◎		(○)	-
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	(○)	○	○	○		(○)	-
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍					○	○	○
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍					○	○	○
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍					○	○	○
ダントツ水溶剤	2,000倍					○	○	◎
バリアード顆粒水和剤	4,000倍		○					
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍		○				○	○
トランスフォームフロアブル	2,000倍		○					
バイオマックスDF	2,000倍			◎	◎			
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍			◎	◎1,000倍			
アブロードフロアブル	1,500倍		○					
アタプロンSC	4,000倍				(○)			
ファルコンフロアブル	6,000倍				(○)			
マトリックフロアブル	2,000倍				(○)			
ロムダンフロアブル	3,000倍				(○)			
テッパン液剤	2,000倍			◎		○	○	
エクシレルSE	2,500倍			◎	◎	○		
サムコルフロアブル10	2,500倍			◎	◎	○		
フェニックスフロアブル	4,000倍			◎	◎			
ヨーバルフロアブル	5,000倍			◎	◎	○		
ディアナWDG	1万倍			◎		○		
デリゲードWDG	1万倍			◎		○		
コルト顆粒水和剤	1万倍					○		
合成ピレスロイド剤		(○)				○	(○)	◎

殺ダニ剤の登録一覧表

(2024年用)

J A 全農山形 生産資材部

2023年11月30日 作成

Table with columns for Pesticide Name, Sensitivity, Application Method, and Target Pests. Includes entries for Danisara, Star-mite, Danicong, Danigetter, Harokko, Mito, Koro, Koto, Bira, San, Danitron, Kane, and Danio.

※1: () 内に表示されている記載については、各県ならびに本会農薬研究室の試験結果ならびにメーカーの情報を参考に農本部独自で評価した内容となっています。

除草剤使用基準

Table with columns for Herbicide Name, Application Tree Type, Usage Period, Application Name, Usage Amount, Effect Appearance, Effect Duration, and Main Characteristics/Notes. Includes entries for Basita, Zaku, Roundup, and Mic.

植物生長調整剤の使用法

対象作物	薬剤名	使用目的	使用回数	使用時期	使用倍数	注意事項
おうとう	CX-10	発芽促進	1回	休眠期（落葉後12月～1月）	10～30倍	10a当たり300～400ℓ散布する。佐藤錦に散布すると2～3日開花が早まる。ただし、樹勢の弱い樹には散布しない。
	サンキャッチ液剤30S	着色促進・糖度向上	2回	1回目……収穫開始14日前（着色始期） 2回目……収穫開始7日前（初回散布7日後）	300～600倍 300～600倍	
りんご	ストップール液剤	収穫前落果防止	2回以内	収穫開始予定日の25～7日前（但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける）	1,000～1,500倍	
	ヒオモン水溶剤	収穫前落果防止	2回以内	収穫開始予定日の21～4日前（但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける）	1,000～2,000倍	熟期促進効果はないが早ぎ。高温時や樹勢が弱い樹には散布しない。
	石灰硫黄合剤	摘花	2回以内	側花の摘花：中心の満開から2～3日後 えぎ花の摘花：えぎ花の70～80%開花時	100～120倍	高温時の散布で薬害が出やすいので朝・夕の気温が低い時に散布する。
	エコルーキー	摘花	2回以内	満開日（頂芽満開日で側花が7～8割開花した時期）に散布する。追加散布を要する場合は1回目散布2～3日後に、100～150倍、単用で散布する。	100～150倍	柱頭に付着するように散布する。SSではファンを止めるか低風圧で散布する。
ぶどう	マイクロデナボン水和剤85	摘果	2回以内	満開後1～4週間頃 （目通りの中心果の横径） ふじ 7mm前後 王林 約12mm 千秋 約11～12mm 紅玉 約14mm	1,200倍	つがる、デリシャス系品種は過剰摘果になりやすい。紅玉、ジョナゴールドは特に過剰摘果になる。ふじ、千秋はやや落ちにくい。
	CX-10（シアナミド）	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	1回	収穫後発芽前 結果母枝に散布	10～20倍	
ぶどう	アグレプト液剤（ストレプトマイシン）	無種子化	1回	満開予定日の14日前～開花始期 散布又は花房浸漬 満開予定日の14日前～満開期 花房浸漬（第1回ジベレリン処理と併用）	1,000倍（200ppm）	
ぶどう（巨峰）（ピオーネ）	アブサップ液剤（アブシシン酸）	着色促進	1回	着色始期～着色開始2週間後	100～200倍	薬液が果粒に付き過ぎると果面のよごれや果粉が溶脱するおそれがあるので、使用濃度、使用量を厳守する。また、果房周辺の葉に飛散しない様注意する。
ぶどうデラウェア（露地栽培）	フラスター液剤（メピコートクロリド）	新梢伸長抑制	1回	新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで）	1,500～2,000倍（200～250ℓ/10a） 800～1,000倍（100～150ℓ/10a）	1. 極端に樹勢の強い樹では摘心と併用する。 2. 通年施用で樹勢が衰える場合があるので注意する。
ぶどうデラウェア	ジベレリン	無種子化 果粒肥大促進	2回	満開予定日約14日前（第1回目） 花房浸漬 満開約10日後（第2回目） 果房浸漬（100ppm）又は果房散布（75～100ppm）	100ppm 75～100ppm	1. ジベレリン単用処理時の処理体系である。 2. 使用回数2回、但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
	ビーエー液剤（ベンジルアミノプリン）	無種子化処理の第1回ジベレリン処理時期の早期への拡大	1回	満開予定日の17～14日前 ジベレリン第1回目処理液に添加して果房を浸漬処理	300倍	1. 露地栽培でのジベレリン第1回目処理液に添加する処理体系である。 2. 第1回目のジベレリン単用での処理適期より約3～4日早く処理することができる。
	フルメット液剤（ホルクロールフェニユロン）	果粒肥大促進	1回	満開約10日後（ジベレリン第2回目処理日） ジベレリン100ppm液に添加、果房浸漬（満開約14日前のジベレリン第1回目処理は慣行） 満開約10日後（ジベレリン第2回目処理日） ジベレリン75～100ppm液に添加、果房散布（満開約14日前のジベレリン第1回目処理は慣行）	1～5ppm 3～5ppm 3～10ppm	1. ジベレリン第1回目処理液又は、ジベレリン第2回目処理液に添加する処理体系である。 2. 着果過多による裂果、果実の着色遅れ、糖度低下など品質に悪い影響を及ぼす恐れがあるので、着果量の調整など必要な措置を十分講じる。 3. 異常な高温・乾燥が続くときは使用しない。 4. 使用回数1回、但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶどう（シャインマスカット）【無核栽培】	フラスター液剤（メピコートクロリド）	着粒増加 新梢伸長抑制	2回以内	新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで）	1,000～2,000倍（100～150ℓ/10a）	樹勢が弱い場合は使用しない
	フラスター液剤（メピコートクロリド）	新梢伸長抑制		満開10～20日後（但し、収穫60日前まで）	500倍（150ℓ/10a） 1,000倍（300ℓ/10a）	
	ジベレリン	無種子化 果粒肥大促進	2回	満開時～満開3日後（第1回目） 花房浸漬 満開10～15日後（第2回目） 果房浸漬	25ppm	使用回数2回、但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
	フルメット液剤（ホルクロールフェニユロン）	着粒安定	1回	満開時～満開3日後（ジベレリン第1回目処理日） 満開時～満開3日後に使用するジベレリンに添加、花房浸漬（ジベレリン第2回目処理は慣行）	2～5ppm	1. ジベレリン第2回目処理時に本剤を使用すると縮果症が増える場合があるので注意する。 2. 使用回数各1回、但し、降雨等により再処理を行う場合は2回以内とし、総使用回数5回以内
フルメット液剤（ホルクロールフェニユロン）	果粒肥大促進	1回	満開10～15日後（ジベレリン第2回目処理日）ジベレリンに添加、果房浸漬（ジベレリン第1回目処理は慣行）	5～10ppm		
		花穂発育促進	1回	展葉6～8枚時 花房散布	1～2ppm	

農協防除農薬採用品目の樹種別農薬登録早見表

Table with columns for crop type (e.g., citrus, apple, pear, peach, nashi, grape, small grains, large grains, persimmon) and pesticide name. Each entry includes registration status, application timing, and usage frequency.

※ぶどうではぶどう全体に適用される「ぶどう」と「大粒ぶどう」「小粒ぶどう」などと適用作物が異なる場合があるので注意する。 ※なしでも日本なしと西洋なしに区別されていることがあるので注意する。 ※ももとネクタリンは別の作物として扱われるので注意する。 ※収穫前日数に十分注意して散布する。 ※東根市農協果樹防除基準に記載されている農薬を載せた。 ※使用時期や有効成分によって、使用回数異なる場合は総使用回数欄を()で示した。 ●は登録があることを示す。(空欄は登録がない) -は使用時期または使用回数に制限がないことを示す。

ウララ[®]_{DF}

ISK 石原バイオサイエンス株式会社

ガムコル[®]フロアブル10

 三井化学アグロ株式会社


日産
トランスフォーム[™]フロアブル

 日産化学株式会社

各種害虫にバシッと効く
ダントツ水溶剤

 協友アグリ株式会社

殺菌剤
カナメ[®]
フロアブル

和の国、農の力。
 住友化学
住友化学株式会社

オンリーワン[®]フロアブル

バイエル クロップサイエンス株式会社

パレード15[®]フロアブル

 日本農薬株式会社

 スコア[®]
顆粒水和剤

syngenta
シンジェンタ ジャパン株式会社

チョウ目害虫に
兼商 ヨーバル[®]
フロアブル

 アグロ カネショウ株式会社

ナリア[®]WDG

BASFジャパン株式会社



ダニオーテ[®]

 日本曹達株式会社